

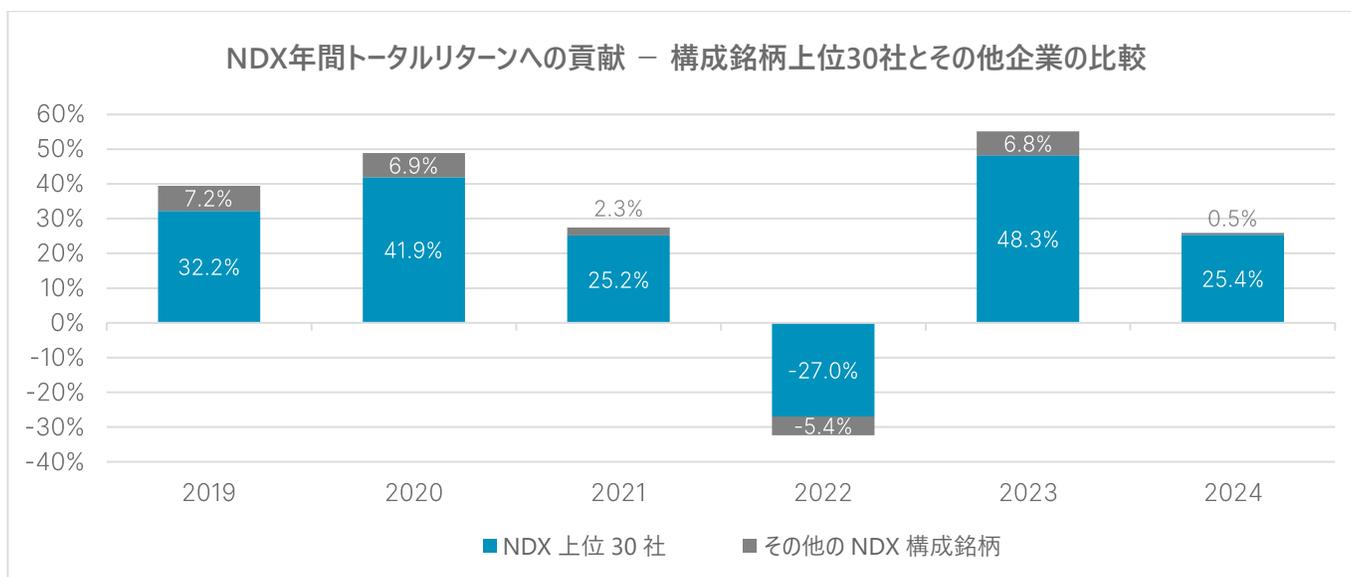
# ナスダック 100 トップ 30™ でメガキャップ企業の成長にアクセス

David Tsoi, CFA, CAIA, FRM, CESGA, CAMS, *Head of Index Research, APAC*

現代のメガキャップ企業は、テクノロジー革新を牽引することで経済構造の変革を促し、持続的かつ力強い利益成長を遂げています。また、昨今の AI ブームを牽引しているのは、高い収益力と実績を有する巨大 IT 企業です。こうしたメガキャップテック企業は、豊富な資金力、低コストの資本へのアクセス、最先端の技術力を背景に積極的に設備投資を拡大し、高まる AI 需要を満たすイノベーションを推進することで、圧倒的な競争優位性を維持できます。さらに、一般的に中小企業よりも事業の多角化が進んでいるため、景気変動期においても高いレジリエンスを発揮します。

## 近年のナスダック 100 指数を牽引する超大手企業

ナスダック証券取引所は、1971 年の設立以来一貫して、各業界の草分け的存在で大きな影響力を持つ世界中の企業を惹きつけてきました。世界の時価総額上位 10 社のうち 8 社がナスダックに上場しています。<sup>1</sup> そして近年の米国株式市場の力強い上昇の大部分は、ナスダック上場のメガキャップ株が牽引しています。2019 年から 2024 年までの期間において、ナスダック 100 指数（Nasdaq-100 Index®、NDX®）構成銘柄における時価総額上位 30 社の平均合計構成比は 77%で、同指数のトータルリターンのうち平均 88% をこれら 30 社が占めました。さらに昨年は NDX® 上昇分の 98%が上位 30 社による寄与となっています。



出所：ナスダック・グローバル・インデックス、ブルームバーグ

<sup>1</sup> 出所：ブルームバーグ（2025年6月30日）

## ナスダック 100 トップ 30™ 指数 (NDX30™)

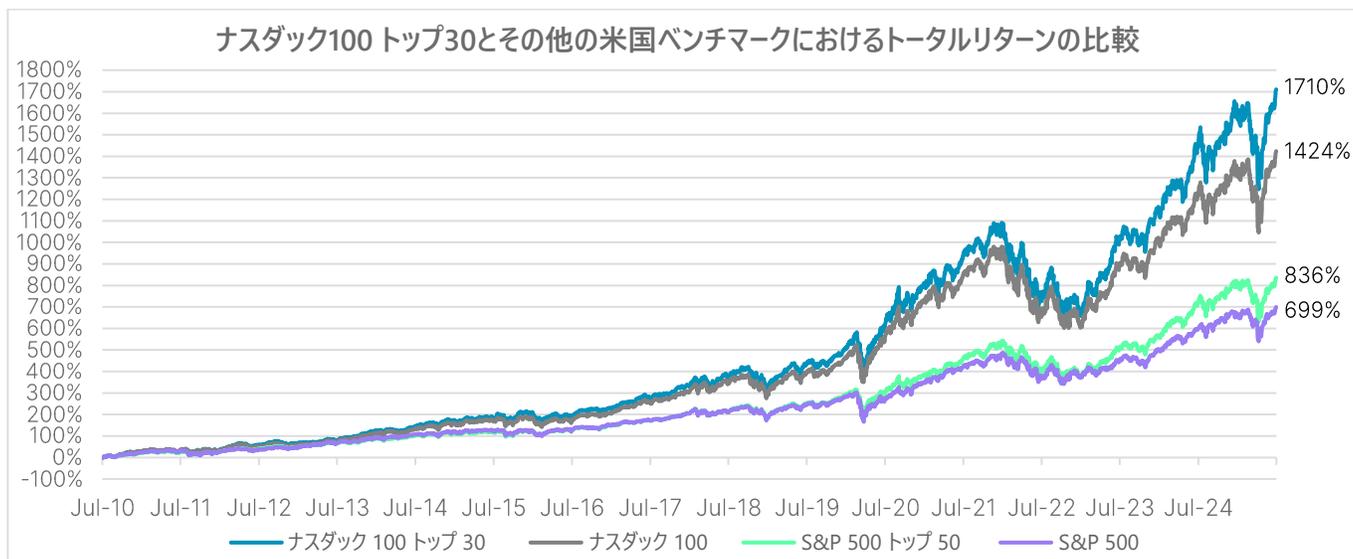
2024年8月26日にローンチされたナスダック 100 トップ 30™ 指数 (Nasdaq-100 Top 30™ Index, NDX30™) は、NDX 構成銘柄上位 30 社のパフォーマンスを追跡するよう設計されており、修正時価総額加重方式を採用しています。最終的な指数の構成比率は、個別銘柄の比率が 22.5%を超えないように調整され、4.5%を超える銘柄の合計比率が 48%を超えないように設定されています。

NDX30™は四半期ごと（毎年 3 月、6 月、9 月、12 月）に構成銘柄の見直しとリバランスが行われ、NDX から除外された銘柄は、NDX30™からも同時に除外され、次の四半期の構成見直しまでは新規銘柄の追加は行われません。インデックスの算出方法の詳細は当社[ウェブサイト](#)をご覧ください。

## NDX30™とその他の米国ベンチマークとの比較

NDX30 は、過去 15 年間のトータルリターンが 1,710%に達し、S&P 500 トップ 50 (SP5T5) の 2 倍以上、S&P 500 全体の 2.4 倍以上のパフォーマンスを記録しています。また、2010 年から 2024 年までの 15 暦年のうち 11 年で SP5T5 を上回っており、特に 2020 年と 2023 年には 23 ポイント以上の大差でアウトパフォームしました。2025 年 6 月 30 日時点で、SP5T5 の約 3 分の 2（時価加重ベース）は NDX30 の構成銘柄であり、これらが SP5T5 のリターンの主な原動力となっています。過去 5 年間における SP5T5 のパフォーマンスへの貢献度が高かった上位 10 銘柄のうち 8 銘柄は、NDX30 の構成銘柄でした。<sup>2</sup>

NDX30 は今年上半期に 8%のトータルリターンを達成し、SP5T5 (5%) と S&P 500 (6%) をアウトパフォームしました。もっとも、4 月 2 日の「解放記念日」に発表された関税措置は、これに対する報復関税の内容が予想を上回ったことで市場の急落を引き起こしました。ボラティリティが高まる局面では市場が過剰反応し、企業の良し悪しを問わず一律に売られる傾向があります。このような現象は、ファンダメンタルズを重視する長期投資家にとっては魅力的かつ長期的な投資機会となり得ます。NDX30 は、4 月 8 日の安値から第 2 四半期末までに 34%上昇し、同期間の SP5T5 (28%) と S&P 500 (25%) を上回るパフォーマンスを示しました。こうした力強い回復の背景には、投資家の信頼回復と好調な決算シーズンの流れを受けたメガキャップテック株の上昇があります。



出所：ナスダック・グローバル・インデックス、ブルームバーグ（2010年6月30日～2025年6月30日）

NDX30 は過去 15 年間で年率換算 21.3%という顕著なリターンを達成し、SP5T5 を 32%上回りました。また、シャープレシオでも 0.93 と高く、最大ドローダウンの水準は NDX や S&P 500 とほぼ同程度に抑えられています。

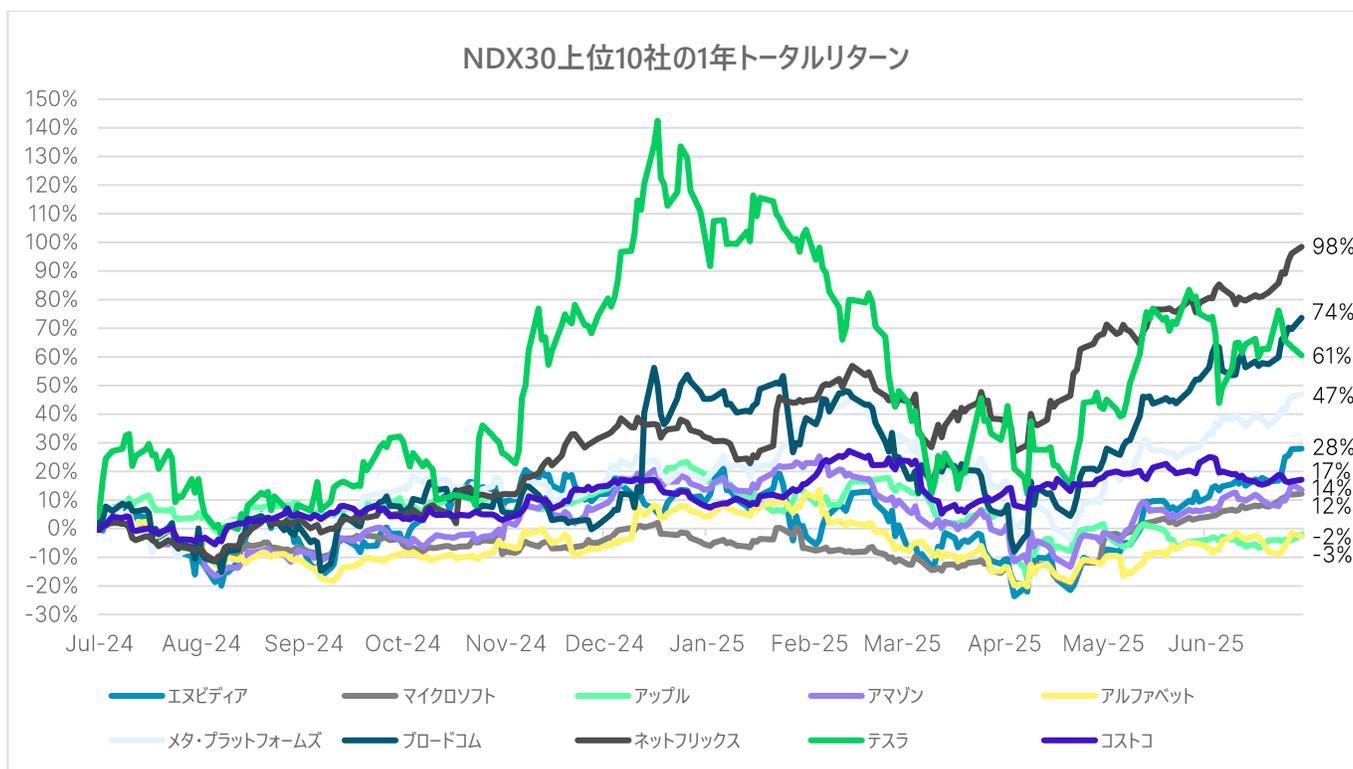
<sup>2</sup> 出所：ブルームバーグ（2020年6月30日～2025年6月30日）

インデックスの名称	トータルリターン (年率)	ボラティリティ (年率)	最大ドロウダウン	シャープレシオ
ナスダック 100 トップ 30	21.3%	21.4%	36%	0.93
ナスダック 100	19.9%	21.0%	35%	0.88
S&P 500 トップ 50	16.1%	17.9%	30%	0.82
S&P 500	14.9%	17.4%	34%	0.77

出所：ナスダック・グローバル・インデックス、ファクトセット（2010年6月30日～2025年6月30日） シャープレシオの算出には、期間全体における米国債（1年満期・定常利回り）の平均利回り（1.49%）を無リスク利子率として使用しています。

### NDX30 上位 10 銘柄

2025年6月末時点でのNDX30における上位10社の合計構成比は69%です。これら上位10銘柄のうちアップルとアルファベットを除く8社は、過去12カ月間でプラスのトータルリターンを記録し、上位10社の平均1年トータルリターンは35%でした。



出所：ナスダック・グローバル・インデックス、ファクトセット（2025年6月30日時点） アルファベットの値はクラス A 株（GOOGL）の TR を使用しています。

NDX30 で 2 番目に大きい構成銘柄であるマイクロソフト（11.8%）は、2025年第2四半期に33%という著しいトータルリターンを記録しました。2025年第1四半期決算から AI および非 AI ワークロードの力強い成長により、不安定な経済環境においてもクラウド部門が顕著な回復力を示していることが分かります。Azure やその他のクラウドサービスの売上は第1四半期に33%増加し、その成長の約半分は AI サービスによるものです。また、マイクロソフトは、開発者がエージェント型 AI を製品や業務フロー、組織にシームレスに構築・統合できるツールを提供しており、<sup>3</sup> フォーチュン 500 企業の 90%がすでに「Copilot Studio」を活用して AI エージェントの構築や自動化を行っています。<sup>4</sup>

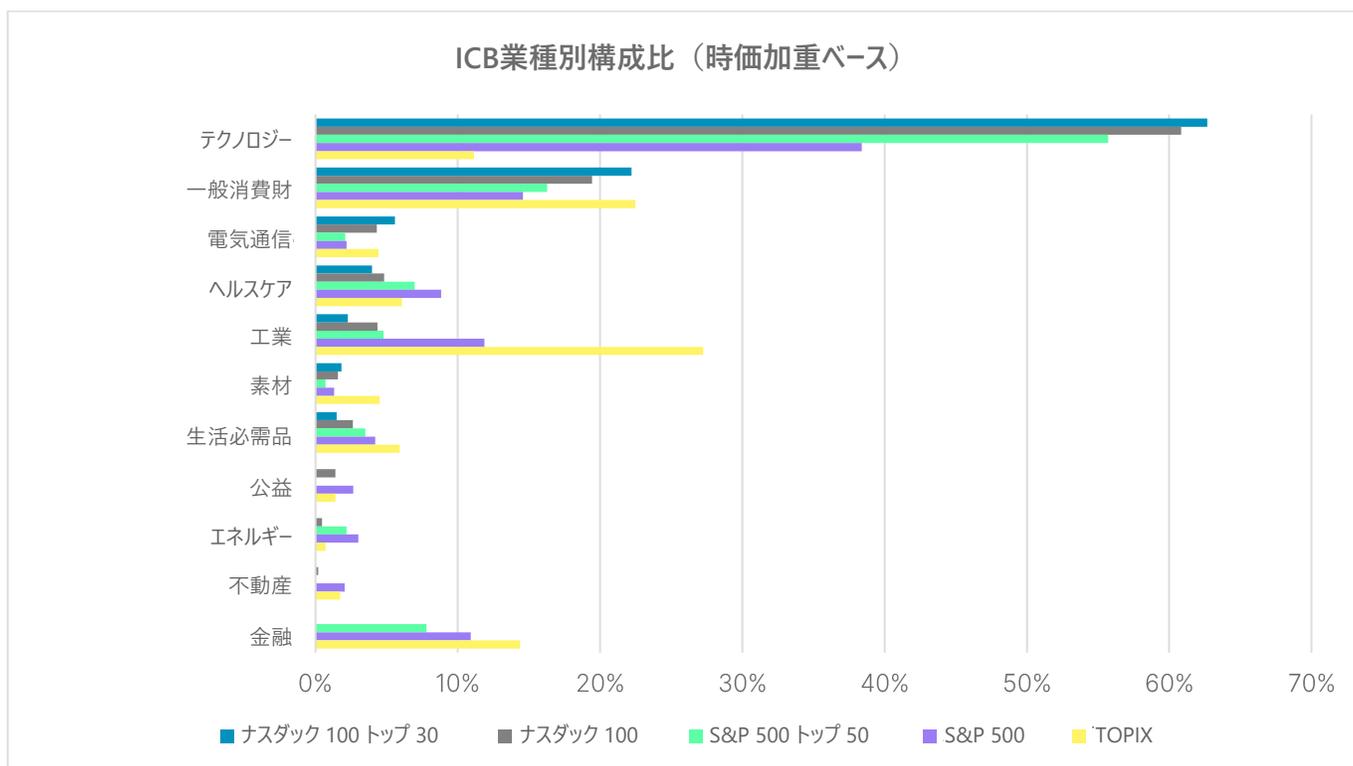
<sup>3</sup> <https://cdn-dynmedia-1.microsoft.com/is/content/microsoftcorp/TranscriptFY25Q3>

<sup>4</sup> <https://blogs.microsoft.com/blog/2025/05/19/microsoft-build-2025-the-age-of-ai-agents-and-building-the-open-agent-web/>

Netflixは、過去12カ月間で98%という目覚ましいトータルリターンを達成しました。関税の影響が限定的であることや、広告事業の拡大による安定成長が高く評価され、投資家から透明な経済環境でも信頼できる投資先と見なされています。また、Netflixは、世界全体の視聴者数が7億人超というストリーミング業界の覇権を確立し、2025年第1四半期には営業利益率が前年同期比28%増の32%に拡大しました。<sup>5</sup> 同社は現在、収益化への転換を進めており、広告主と有料会員の双方に向けたサービス強化を図っています。また、2025年には前年比11%増の180億米ドルをコンテンツに投資する計画です。<sup>6</sup>

## ポートフォリオの構成

今日の経済成長は、テクノロジー、一般消費財、ヘルスケアといった「ニューエコミー」セクターによって牽引されています。これら3業種はNDX30のウェイト全体の89%を占めており、SP5T5の79%やS&P 500全体の62%を上回ります。さらに、NDX30におけるテクノロジー企業の構成比は時価加重ベースで63%にのぼり、SP5T5よりも7ポイント高い水準です。



出所：ナスダック・グローバル・インデックス、ブルームバーグ（2025年6月30日時点）

## 国内セクターの制約を超えた分散投資

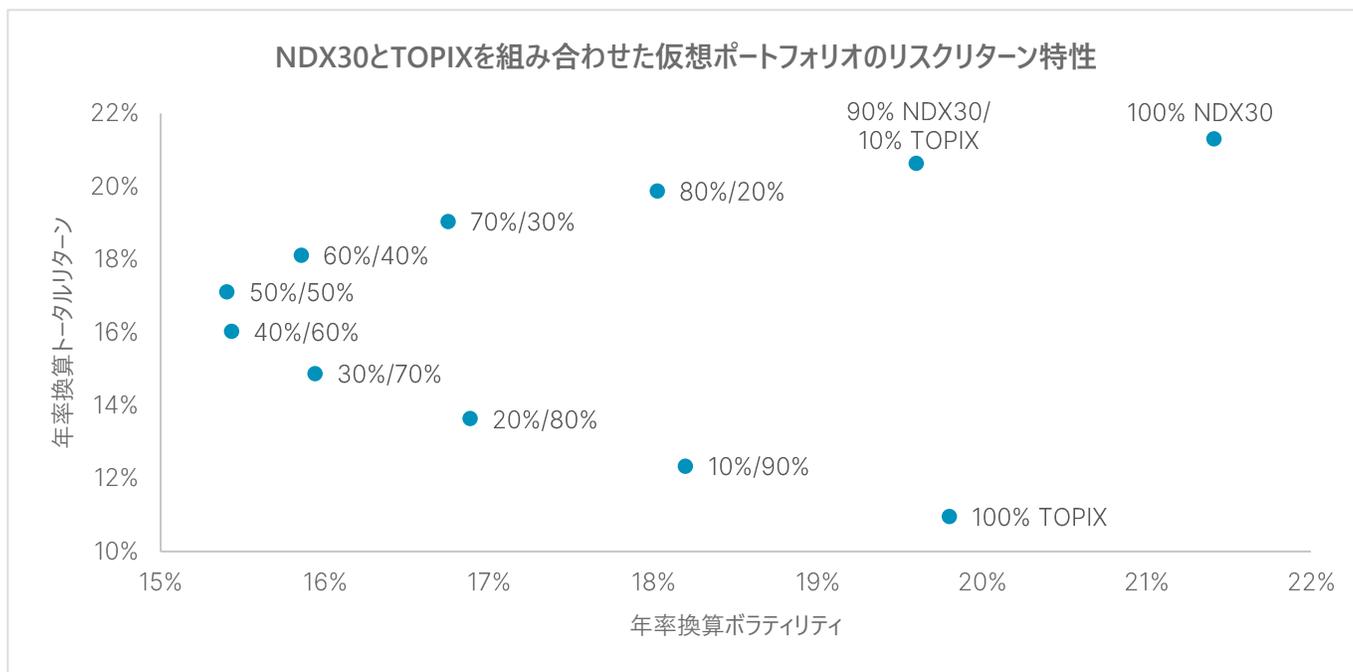
自国での「ニューエコミー」セクターへの投資機会が限られている米国外の投資家は、米国のメガキャップ株をポートフォリオに加えることで、セクター分散を高め、自国内のセクター偏重を補うことができます。例えば、東証株価指数（TOPIX）は、日本株式市場のパフォーマンスを反映する代表的なベンチマークとして広く認識されていますが、TOPIXは、工業（27%）、一般消費財（22%）、金融（14%）に大きく偏った構成となっており、テクノロジー分野の比率はわずか11%と限定的です。<sup>7</sup>

<sup>5</sup> 出所：企業報告書

<sup>6</sup> <https://variety.com/2025/digital/news/netflix-content-spending-2025-ceiling-cfo-1236328510/>

<sup>7</sup> ICB業種別 出所：ブルームバーグ（2025年6月30日時点）

以下のチャートは、NDX30 と TOPIX を組み合わせた仮想ポートフォリオにおける過去 15 年間のトータルリターンとボラティリティのプロファイル（年率換算）を表しています。NDX30 を 60%、TOPIX を 40% の比率で組み入れたポートフォリオが最も高いシャープレシオを達成しており、年率換算リターンは 18.1%、年率換算ボラティリティは 15.9% という優れた結果が示されました。NDX30 と TOPIX には異なるマクロ経済要因が作用しているため、日本の投資家は一般的に、米国のメガキャップ銘柄への投資を組み入れることでリスク調整後リターンの向上が期待できます。



出所：ナスダック・グローバル・インデックス、ブルームバーグ（2010年6月30日～2025年6月30日）

## 結論

ナスダック 100 トップ 30 指数（NDX30）は、「ニューエコノミー」セクターに属するメガキャップ銘柄の動向を的確に捉え、ナスダック証券取引所に上場している最も影響力の大きい企業を追跡するインデックスへの市場のニーズに応える指標です。

関連する ETF（ティッカー）	連動対象指数	設定国
iシェアズナスダックトップ30株式ETF（QTOP）	ナスダック 100 トップ 30 指数（NDX30）	米国
iシェアズナスダックトップ30ETF（392A）	ナスダック 100 トップ 30™ 指数 日本時間・円建て（NDX30JF™）	日本

### 免責事項：

Nasdaq®, Nasdaq-100 Top 30™, NDX30™, Nasdaq-100®, Nasdaq-100 Index®, NDX®, Nasdaq-100 Top 30™ Index JST Fixing JPY、および NDX30JF™ は Nasdaq, Inc. の登録商標です。上記の情報は、情報提供および教育目的でのみ提供されており、ここに含まれるいかなる情報も、特定の証券あるいは全般的な投資戦略に関する投資アドバイスとして解釈されるべきものではありません。Nasdaq, Inc. およびその関連会社は、いかなる証券の売買を推奨するものではなく、またいかなる企業の財務状況について表明するものでもありません。Nasdaq 上場企業または Nasdaq 独自のインデックスに関する記述は、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。実際の結果は、明示的または黙示的に示されたものとは大きく異なる場合があります。過去のパフォーマンスは、将来の結果を示唆するものではありません。投資家の皆様は、投資前にご自身でデューデリジエンスを行い、企業を慎重に評価してください。英語原文の資料と本資料の内容に矛盾や相違がある場合には、原文が優先します。証券の専門家からアドバイスを受けることを強くお勧めします。

© 2025. Nasdaq, Inc. All Rights Reserved.